日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所　地方会ニュース編集事務局
〒470－11
愛知県豊明市沓掛町田楽ケ窪１－98
藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学教室内　電話（0562）93－2453
FAX（0562）93－3079
発行責任者　竹内康浩・島　正吾

（題字　皿井　進筆）

ケアプラザ瀬戸（愛知労災特別介護施設）　瀬戸市山手町294－5　TEL（0561）85－5400
家庭内で適切な介護を受けることができない高齢重度被災労働者に介護サービスを提供する施設として労働省が設置し、平成5年3月に開所した(敷地面積35,089㎡、建物延面積11,009㎡)。―― 野田義美所長提供 ――

謹　賀　新　年

日本産業衛生学会東海地方会長　**竹　内　康　浩**

東海地方会員及び関係者の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

今年は地方会の発展は勿論のこと、島正吾理事長のもとに日本産業衛生学会の発展のためにも東海地方の皆様とともに頑張りたいと存じます。この地方会ニュースは1984年9月1日に第1号が発刊されて、それ以後毎年3回ずつ発行され続け、今年で丁度10周年を迎えることになりました。島正吾先生が地方会長を皿井進先生から引き継がれたのを契機に、地方会員の連帯感と親睦を深めることを目指して発刊されたものです。島前会長の意気込み、岩井淳編集長を中心とした編集委員の粘り強い努力及び会員の積極的な投稿の結実であり、どれが欠けてもこれほど充実した内容で継続することはできなかったものと考えます。10年前の地方会ニュース発刊当時の地方会員数は320余名でしたが、現在は635名（'93／11現在）と丁度2倍になっており、この間の地方会が量的にも目ざましい発展をしたことを示しております。この地方会ニュースを通じて地方会員相互の有効な情報交換が行なわれ、所期の目的が十分果たされてきたものと存じます。

現在はコンピュータをはじめとして情報機器の著しい発展により情報化社会と呼ばれていますが、必ずしも必要な情報が必要としている人に伝わっているとは限りません。むしろ情報公害と言われるような無駄な情報が氾濫しています。このような状況の中で、的確な情報を必要な人に伝えることのできる地方会ニュースは一層重要性を増しているものと考えます。

昨年からは編集長の吉田勉先生を中心に編集委員も若返りましたが、若い力に依拠した新しい発展を期待するものであります。

今年は第10回産業医・産業保健婦・産業看護婦・衛生管理担当者のための研修会（2／18)、平成6年度東海地方研修会（6／17)、第4回産業医・産業看護婦全国協議会（10／18)、秋の東海地方学会など沢山の行事が予定されており、さらに第68回日本産業衛生学会及び特別研修会（'95.4）の準備もあり、多忙な1年になりそうですが、会員の皆様のご協力により何れも充実したものにしたいと存じます。

地方会員及び関係者の皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。

性ジストニア）に関する論文が見出されるようになった。

Sheehyは、書字作業でのみ痙攣の起るSimple writer's crampがやがて、他の手作業動作でも痙攣を生じるFocal dystonic writer's crampへと進行する症例が少なくないことを見出した。彼等は、このような局所性の障害が、さらに腕のみでなく頚部、躯幹、顔面等に波及し、最終的には全身的なgeneralized dystoniaへと進行し得ると考察している。

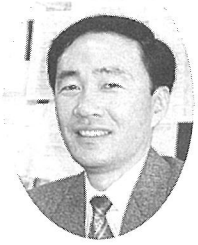
これまで、書痙は職業神経症の領域で取り扱われてきた。手のみならず下肢、舌、口唇などの職業性痙攣を多数記載しているD Hunterのテキスト The Disease of Occupation（Fifth Edition 1975）においても、その原因となるような大脳皮質、神経筋系統の組織学的な障害は見出されていないとされていた。しかし、この10年余の間に原因に器質的障害を考えるべき根拠が整えられてきた。それは、家族性に書痙が発症したり、手の震えや他部位のジストニアを伴う例のあること、そして筋電図やH反射等の神経生理学的検査で異常が見出されたことである。後者は、脊髄における運動制御回路の障害を指摘するものであり、さらに脊髄を制御し運動を支配する上位中枢の大脳基底核や皮質の障害が推定されている点で注目される。

治療についても新しい知見が現れてきた。これまで、書痙を始めとするジストニアは難治性と考えられてきたが、最近、ボツリヌス菌による治療が痙攣症状に有効であるとの論文が発表された。

以上の経過を見るにつけても、類似の作業態様により生じる頸肩腕障害の患者の場合に、たとえ軽度であっても同様な中枢神経系の変化が生じているか否かに関心が持たれる。現在の所、痛みを伴う上肢の障害がジストニア発症の引金になり得るとの報告もあるが、頸肩腕障害や所謂OVER USE SYNDROMEと、ジストニアとの病態的関連は明確にはなっていない。ともかくも、書痙を始めとする職業性痙攣については、疾病の概念、病態、治療を含め、新しい学問的展開が生まれてきており、注目される。また、病態不明の疾病を安易に精神的な原因に帰すことは慎まなければならないと改めて思う。

名古屋国際振動シンポジウム

榊 原 久 孝（名大・医・公衛）



11月5日から7日の3日間、名古屋大学医学部の鶴友会館で、名古屋国際振動シンポジウムが、海外より7名の著名な研究者をお迎えし、国内からの参加者50余名を合わせ、合計60余名で開催された。これは、名古屋大学の山田信也教授の定年と、振動障害研究30周年を記念して企画されたものである。話の発端は、昨年5月ドイツのボンでの第6回手腕振動国際会議のあとの懇親の席で、国際会議で主要な研究課題となっている、振動障害の病像、手腕振動の自律神経への影響、予防の為の基準などについて、もっと突っ込んだ論議が必要ではないかとの話から、そのためのシンポジウムを名古屋大学で開催しようとの話になり、実現したものである。

シンポジウム第1日目には、加藤延夫名古屋大学総長の開会挨拶の後、山田信也教授の「日本における振動障害の研究と予防」の記念講演がなされた。つづいて、「振動障害の臨床像」をテーマに、的場恒孝教授(久留米大学)の「振動障害の病態生理と臨床像」、Peter L. Pelmear博士（Canada）の「振動障害の臨床的評価」の報告があり、討論がなされた。2日目は、「振動刺激に対する自律神経系反応」について、名大環境医学研究所自律神経・行動科学講座の間野忠明教授の特別講演「環境刺激による自律神経系の生体反応」の後、原田規章教授（山口大学）の「振動障害患者の自律神経機能」、Gosta Gemne博士（Sweden）の「VWF発症機序と自律神経機能」、榊原久孝講師（名古屋大学）の「手腕振動への交換神経反応と下肢症状」、Ilmari Pyykko博士（Finland）の「手腕振動の人の内耳および心機能への影響」の報告討論が一日かけて行なわれた。3日目は、「振動曝露の実態と予防」と題して、Micheal J. Griffin教授（U.K.）の「振動曝露許容基準の考え方」、Ladislav Louda博士（Czech Republic）の「衝撃振動の許容基準について」、二塚信教授（熊本大学）の「日本における振動曝露実態と予防」、Jukka Starck教授（Finland）の「フィンランドにおける振動曝露実態と予防」、Donald E. Wasserman博士（U.S.A.）の「米国における振動曝露実態と予防」の報告と討論がなされた。このほかにも、10名の国内研究者から追加報告があった。討論は活発に行なわれ、半日に1時間ずつ予定した討論時間は不足し、いずれも延長するほどであった。今回のシンポジウムでは、内外の研究者間の意見交換が活発におこなわれ、ある点では意見の相違が明らかになると共に、逆に自律神経系の関与の点では相互理解が進んだのは大きな成果であった。なお、このシンポジウムの内容は、来春Nagoya Journal of Medical Scienceの特別号として発行される予定である。

最後に、この場を借りて、このシンポジウム成功の為に御尽力いただきました内外の先生方に篤く御礼申し上げます。

第24回国際労働衛生会議

上 島 通 浩（名大・医・衛生）

9月26日から10月1日まで、フランスのニースにおいて第24回国際労働衛生会議が開催された。この学会は3年に1回開かれている。参加者は世界各国から合計3600人に達し、6日間にわたり7人の特別講演、385題の口頭演題、450題のポスター、33のビデオ演題が、それぞれのセッションであふれる熱気のもと提示された。ここでは、学会に先立って行われたプレコーおよび学会会期中のCOLLOQULUMで取り上げられた話題について報告したい。

パリの西300キロのアンジェで行われたプレコースでのテーマの一つは、ハンディキャップをもった人の雇用についてであった。ここで注目すべきは、職業起因性の健康障害を受けた人の職場復帰と障害者の雇用とを同一線上で捉えている点であり、例えば肉体的にハンディを負った人が働ける職場は、健常な労働者にとっても筋骨格系障害などの職業性疾患の発生も少なく、また障害を受けた作業者の職場復帰も容易に行い得るという視点が強調された。ここでいう障害者とは、身体面での障害のみならず精神障害までも含み、あ

らゆる障害についてその雇用に積極的な方向で討論がなされた。

アメリカの Massachussets 大学の Himmelstein は、1990年に制定された The Americans with Disabilities Act （ADA）を紹介した。ADA のもとでは、雇用者はいかなる障害者に対しても雇用にあたって差別をしてはならず、募集した職種に応募してきた障害者を雇用しない場合には、その理由を明示しなければならない。また、被用者の労働能力の評価は雇用者の責任で、障害をもった被用者に対して適切な仕事を選定して与えなければならないことがうたわれている。この過程において、産業医や他のメディカルスタッフは、その障害をもった人を雇用する上で適切な医学的助言を与える中心的な役割を担っている。

一方、スウェーデンの Brzokoupil は、Samhall という、障害者の雇用の促進を目的とした企業群の概要を報告した。

Samhall company の理念は、労働が単なる物質的要求を満たすだけでなく、その個人の人生における発達、協調、意味づけという人間的欲求を満たすことであるとしている。単に障害者のリハビリテーションや作業所的な在り方を事業内容とするのでなく、職業訓練を含むさまざまなサービスや地場産業の商品を、通常の経済ベースにのって扱っている。労働行政と連携をとりつつ、障害者と一般の労働市場との結びつきに大きな役割を果たしているという。

以上の２つの報告は、日本における快適職場を考える上でも一つの方向性を示唆しているものと思われる。

次回の国際労働衛生会議は、1996年にスウェーデンのストックホルムで行われる予定である。

平成5年度　東海地方会学会

東海地方会学会を担当して

岩　田　弘　敏（岐大・医・衛生）

平成５年度の東海地方学会が１１月２７日（土）、岐阜大学医学部で盛会のうちに開催でき、主催者として心から感謝申し上げる。参加者は予想外に多く約１５０人であった。東海地方会の岐阜県会員は５０人程度で、そんなに多いほうではない。しかし、会員ではないが医師会に属して産業保健活動をしている産業医は多い。なんとか岐阜県の産業保健の活性化を図るために、この地方学会に参加を促す意味で、日本医師会の認定産業医研修会の指定を受け、午前は専門研修（その他）２．５単位、午後は生涯研修（専門）４単位、計６．５単位を獲得した。時あたかも日本産業衛生学会の理事長に東海地方会会長の島教授が就任された。東海地方学会で挨拶をお願いするよりも学会活動について講演を願ったほうがよいと考え、テーマも時代に即応させ、医師会との連携について強調していただくため「地域産業保健活動の新しい展開」をお願いした。特に愛知県に設置された産業保健推進センターの実情、運営について具体的に解説されたので、今後の愛知県以外の東海地方の県への良いサゼスションになったものと思われる。出席者に大変意義あるインパクトを与えていただいた。さらに、岐阜県の産業保健の地域性を考えると、職業病として最も問題がある「じん肺」を取り上げざるを得なかった。これは古くて新しい問題である。じん肺問題は岐阜県に限ったことではなく東海地方でも、さらにはわが国全体にとっても重要な課題である。丁度、発展途上国であるフィリピンでの活動経験を有する吉田先生（藤田保健衛生大学から聖隷健康センターに転職）に「フィリピンにおけるじん肺対策の歩み」について、わが国での対策に対応させながら講演願ったわけである。わが国の歩みに比すれば相当のひらきがあるが、その進んでいるはずの、わが国でも「じん肺」が依然大きな問題であることに、ことの重要性を感ぜざるを得ない。

一般演題は２８題頂戴した。地方学会なので皆が一同に集まり討論するのが望ましいことではあるが、最近は演題数が多く、２会場に分けて発表する形式になっている。今回もそんなわけで２会場に分けたため、ご不便をかけてしまった。それよりも会員数が増加してきたことも原因と思われるので、今後は演題数が増すばかりかも知れない。

いずれにしろ、東海地方での催しごとは名古屋から外れると、参加数がどんと減少するのが習いであるが、今回は比較的多数の方々のご参加を頂き、安堵したところである。また、積極的な討論もされていたので、岐阜県としては成功の部類と自画自賛しているところである。ただ、会場とした医学部内の講堂が分散しており、参加者に大変ご迷惑をかけてしまった。ご了承願いたい。ともあれ、ご参加いただいた皆さんに心から感謝し、稿を閉じたい。

シリーズ1　若手産業医に聞く⑥

産業医になって思うこと

渡　辺　美寿津（三菱重工・名航）

昭和59年に旭川医大を卒業し、当初は循環器内科を志していた私が、産業医になったのは、自分でも予想もしていなかったことでした。私が産業医になるきっかけを作ってくれた息子は、私の産業医歴と同じで、今年、満7才を迎えます。仕事の方も比較的軌道に乗り、その分、毎日が忙しくなってきた今日この頃、突然の原稿依頼があり、まだまだ若手なんだなという実感を胸に、この6年間を振り返ってみることにしました。

研究面では、取りあえず、事業所の要望や、予防医学的見地から、今までに、腰痛問題、長時間残業者の健康管理（蓄積的疲労症候調査）、タイプA行動パターン（ＪＡＳ問診票）、職場ストレス（ＪＣＱ問診票）、ＴＨＰ（愛知医大運動療育センター）などをがむしゃらに行ってきましたが、これが将来どんなかたちで実を結ぶことができるのか？産業医となって初めて指導をいただいた元三菱重工の岩井淳先生に、つねに何らかのかたちで事業所や本人に結果を返す必要があることを教えていただき、いまでもしっかり記憶に残っているのですが、実はこれがかなり大変な作業であることが解りました。幸い、愛知医大の衛生学に研究生として籍を置くことができ、現在は、大学の情報や知識をつてとし、頑張ろうと思っています。また今後は、在職中の死傷病統計をやりたいと考えています。

実践面では、事業所のホームドクターとして、また従業員個々のホームドクターとして、産業医をやっているわけですが、難しく感じるのは、“職制”とい制度です。私もその中に身を置いているわけですが、この制度のために、かなり風通しがわるくなってしまう事がありますし、守秘義務に危機感がでてきますし、ストレスもたまるのでは、と考えています。また、現在の段階では、従業員個々の健康にたいして、かなりの時間を個人面接に充てているのですが、時間的節約のためにも、一次予防の見地からも、もっと健康教育を行う必要性を感じています。当事業所では、有害業務も多く、特定業務に対する教育も含めて、さらに進めてゆくつもりです。

終身雇用制が定着している日本では、職域における健康管理が、かなり重要な位置をしめ、私達にかかる期待もかなり大きいのですが、さて、私はどれだけ労働省の、事業所の、従業員のニーズに応えているか？と考えると、とても合格とは思えません。基本的には相手の立場に立って考える姿勢、相手の事を考えられる余裕、優しさ、そして、客観的に物事をとらえ、公正に判断できる視野を持つ産業医になってゆきたいと考えていますが、まだまだ道のりは遠そうです。最後になりましたが、当事業所では、Ｆ15戦闘機や海自・陸自のヘリコプターなどを作っています。多くの産業医の先生方との情報交換や協力体制がもっとできることを目指して、一度みんなで職場巡視を一緒にしてみませんか？

シリーズ2　留学生に聞く③

私が感じた日本

劉（りゅう）　惠芳（けいほう）（藤田保衛大・医・公衛）

1991年4月に、私は日本の公衆衛生学を勉強するためにはるばる上海から日本にやって来ました。名古屋大学工学部の先生の紹介で、藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学教室の研究生として勉強する機会を得たのです。幾年も願っていた私の夢が、島先生のご好意でやっとかなうことができました。ご指導を頂いている島先生は、現在日本産業衛生学会理事長で、早くから日本の産業衛生の向上に多大な貢献をされています。このような高名な先生のもとで勉強できることはとても幸せです。

私は9年前に大学を卒業し、そして上海市胸科病院漢方医科（中医科）に勤めておりました。日本に初めて来た時は、日本語がほとんど話せず、日本の生活にも慣れませんでした。それから2年、島先生はじめ教室の先生方に色々なことをとても親切に教えて頂き、やっと日本の生活、習慣、言語にも慣れてきたところです。

日本での生活で、私が強い印象を受けたのは、空気がきれいなところと、新幹線、電車、地下鉄等の交通機関がとても便利なところです。上海における最大の問題は、交通機関の状況が悪いことです。地下鉄が6路線通る予定ですが、今はまだ1路線しか走っていません。30年、40年経ってバスや車が8倍位に増えましたが、道は非常に狭く昔のままです。日本ではクラクションを危険なときにしか鳴らしませんが、上海では道がこんでいるため、夜遅くまでクラクションが鳴り、とてもうるさく感じます。食生活では、日本のお米と水道水がおいしく、生野菜や刺身なども安心して食べられます。上海では刺身を食べる習慣がないことから、私は最初刺身が全く食べれませんでしたが、今では刺身は大好きになりました。しかし野菜や生きている川魚に関しては、上海の方が圧倒的に種類が多く、大量に安く販売されています。そして人々は緑色やさいや魚が大好きで日本人よりも多く食べます。

日本は自然が豊かな国だと思います。私は京都、奈良、伊勢神宮、乗鞍山などを旅行して日本の自然、風俗習慣、文化、歴史などを少し理解することができたような気がします。

今日本は平均寿命が世界一長く、保健、福祉、医療の連係を進めています。日本の健康保険制度は非常にいいと思います。国民はだれでも健康保険に加入することができ、保険の種類によって1割から3割までの自己負担があります。しかし中国では、国家公務員と労働者は医療費が国家から支払われますが、無職の人及び自営業の人は100％自己負担となり、受療する人にとっては大変な負担金となります。だから、これから中国の健康保険に関して改善する方法を見つけだす必要があると思います。

学会・研究会活動

第８回　健康度評価研究会

飯　田　英　男（健康管理コンサルタント）

１．日　時　平成５年11月12日（金）
２．場　所　名古屋市公会堂４階第７集会室
３．司　会　入谷辰男（トヨタ自動車産業医）
４．講　演　(1)　疾病の重篤度
山内一信（名大・医療情報部）
(2)　脳の健康度――人間ドックの経験から――
古瀬和寛（中津川市民病院）

まず、山内一信教授から、Ⅰ）いろいろな健康の定義、Ⅱ）健康の実態、Ⅲ）いろいろな体力の定義、Ⅳ）大学生の健康度に関する研究、Ⅴ）健康度と重篤度、Ⅵ）重症度の例、Ⅶ）結局「健康とは」という順序で話をすすめられた。健康をWHOの定義に従って、身体的・精神的・社会的な三つの側面から考えると、それぞれをＸＹＺの三つの座標軸に置いて、総合的な健康を三次元のベクトル（$\vec{H}$）で表現する考え方を提案された。そして身体的側面（Ｘ軸）を表現するため、自覚症状の数・疾病の有無と重症度・検査所見の異常・体力評価などを、満点からの減点方式で座標軸にプロットすることを考え、疾病の重症度の例として、高血圧症に関する東大３内科分類・心室性期外収縮のLown分類・心房細動における血栓基栓危険率の分類・トヨタ自動車の疾病管理区分「Ｃ・要通院」のランク分けの条件などを紹介された。

古瀬和寛副院長は、最近話題の脳ドックについて、CTとMR（MRIとMRA）で何が見えるのかをまず解説された上で、1992年８月～10月に行われた日本磁気共鳴学会の「頭部MRAスクリーニング検討委員会報告」から、脳ドック実施医療機関数・検査項目・料金・脳ドックに対する放射線科医、脳神経外科医、神経内科医の考え方の差異などを示された。脳ドックの今後の課題として、「ＭＲＡスクリーニングの精度評価」・「検出された異常所見あるいは疾患についての対処の問題」・「得られた所見をどう判定し患者にどう告げて行くか」などがあること。“脳の健康度を知る”ことについては、今の脳ドックから分ることは、①今の脳の状態はどうなのか？、②何か隠された病気はないだろうか？、ということを形態学的にとらえるレベルであり、脳の機能ということになると新しい方法の導入や開発が必要となることを話された。

二人の講演に対して活発な質疑や意見が出た。参加者72名。

第３回産業医・産業看護全国集会

加　藤　保　夫（岐阜県産業保健センター）

平成５年10月19日、第３回産業医・産業看護全国集会（企画運営委員長：八木享司）が東京簡易保険会館で開催された。午前の産業医部会では、「専門産業医の目指すもの」と題して講演があり、学会の専門医研修の現状と将来の見通しが分かりやすく説明された。事例研究として①「中小零細企業集団における健康診断システムの一例」では、窯業集団における既存の組織の協力の役割が協調された。②「地域保健における産業医と産業看護の連携」では、嘱託産業医の活動に現場を知る産業看護職の存在が極めて重要とされた。③「産業保健のプラマリイケア」では、専属産業医はmedicalのみならず、health care（予防）システムの構築を目指すべきとされた。午後の合同協議会の「産業保健活動の実地－産業医産業看護の役割とチームワーク」：①「一般健康診断情報をどう読むか」では、糖尿病の事例をもとに頭からの指導でなく医療を阻む要因の分析とカウンセリング的手法が有用とされた。②「作業環境管理と職場巡視」では、鉛再生、坑内作業等の劣悪環境の実態のスライド提示、有害作業事例の図で危険点を見つける手法が実践的であった。③「健康教育　禁煙へのアプローチ」では、会場をいくつかの立場に分けて、それぞれを援護する手法が新鮮であった。④「職場のメンタルヘルス」では、システム開発での職場不適応事例の紹介で現場の対策が決め手と思われた。総じて得るものが多い協議会であった。

第33回日本労働衛生工学会
第14回　作業環境測定研究発表会

杉　山　益　唯（聖隷健康診断センター）

平成５年11月17、18日　第14回作業環境測定研究発表会
平成５年11月18、19日　第33回日本労働衛生工学会
会　場　　大阪ＹＭＣＡ会館

コートが恋しい季節になるとやってくる、というイメージのこの両学会、今年は５月を想わせる陽気のなかで行われた。例年通り、３日間の変則連続開催の中日の18日は両学会の同時開催となった。

作業環境測定研究発表会初日に行われたシンポジウムは「騒音作業環境をめぐって」というテーマのもとに、様々な意見が交わされた。安衛法、及び測定基準の改正からほぼ一年が経過し、多くの問題点が指摘されたが、同時に多くの改善案も出され、これからの対応が注目される分野であることを痛感した。

翌日は両学会の同時開催、各方面の研究報告等が熱心になされた。会場が３つに分かれており、移動はたいへんであるが精力的に動き回る人が多々見られた。

最終日は日本労働衛生工学会シンポジウムが行われた。電機産業大手４社の労働衛生の取り組み方、実際の製造工程における問題点が発表された。各企業とも貴重なデータを惜しみなく出して下さり何か大企業の裏を見ているようで興味深かった。

多方面からの情報を集めた両学会、ともに盛会のうちに閉会となった。会場の外はやっと冬将軍の到来である。

お　知　ら　せ

第10回産業医・産業保健婦・産業看護婦・衛生管理担当者のための研修会

日　時　平成６年２月18日（金）　午前10時～午後４時30分
場　所　ルブラ王山「飛翔」(地下鉄池下駅から東へ徒歩３分)
会　費　8,000円
プログラム
1. 講演「ライフスタイルの変容と行動科学」
　講師　上里一郎（早稲田大学人間科学部人間基礎学科教授）
2. 講演「いま求められる健康法」
　講師　蜂須賀弘久
　（前京都教育大学学長、現神戸女子短期大学学長）
3. パネルディスカッション
　「ＴＨＰの定着性における問題点－仮題」
　座長　橋本哲明（東芝三重工場産業医）
　パネリスト
　服部保次（富士電機鈴鹿工場健康管理センター所長）
　高瀬穎宏（三菱電機中津川製作所健康増進センター前センター長）
　加藤幸久（名城大学理工学部健康科学教室講師）
　寺田弥生（ＮＴＮ磐田製作所管理部安全衛生課ヘルスケアトレーナー）
　助言者
　飯田英男（健康管理コンサルタント）

会員の表彰

労働大臣功労賞　島　正吾
（藤田保衛大・医・公衛）

会員の異動

新入会員

愛　知　安藤　詳子(名大医短)　市川　隆(名市大医衛生)
奥野　元保(新城市民病院)　金子　宜弘(明治生命)
神取　祥和(美合病院)　鈴木日美子(名市大医衛生)
高井　充明(名市大医衛生)　瀧　和子(名勤生協)
竹内　茂雄(松下精工)　田中　勝巳(田中歯科)
鶴見　邦夫(名市大医衛生)　林　実(名市大医衛生)
福永　素臣(大同病院)　山崎　貢(愛知県衛研)
吉田　正司(吉田歯科)
岐　阜　富田　国男(神岡鉱山病院)　小木曽政則(小木曽歯科)
日比野幹正(三菱電機稲沢)
静　岡　鈴木　典子(本田技研浜松)　後藤　美紀(ごとう歯科)
福田　栄(福田歯科)　石川　恵一(浜北歯科)
羽切恵美子(羽切歯科)

退会者

愛　知　桑田　悟(半田医師会臨床検査センター)
武ノ上　庸(東亜合成)
山田　周(中部安全衛生センター・関東地方会へ転出)
静　岡　牧角　淳（旭化成・関東地方会へ転出）

赴　報

帯金　芳樹（ヤマハ発動機）

これからの行事予定

第７回職業性肺疾患研究会
期　日　平成６年２月26日（土）14：00～17：00
場　所　国際サロン（名古屋駅前　毎日ビル８階）
講　演　「最近におけるじん肺問題の動向」
（アンケート調査中間報告）
吉田　勉（聖隷健康診断センター）
「じん肺の歴史の新知見」　吉野貞尚
一般演題　特別発言　五藤雅博（旭労災病院）他
＊演題申し込み　地方会事務局　名大・衛生（柴田英治）まで

第67回日本産業衛生学会・特別研修会
日　時　平成６年３月21日（月）　午前10時～午後４時
場　所　岡山シンフォニーホール

第67回日本産業衛生学会
日　時　平成６年３月21日（月）～24日（木）
場　所　岡山シンフォニーホールおよび岡山大学医学部

地方会理事会

第３回理事会
日　時：平成５年９月７日（火）14：00～16：00
場　所：名古屋大学医学部鶴友会館２Ｆ大会議室
出席者：28名　委任状　51名
1. 報告事項
(1) 本部・事務局からの連絡事項（島、柴田）
2. 協議事項
(1) 平成５年度東海地方学会（伊奈波（代理））
(2) 地方会ニュース28号（吉田）
(3) 第10回産業医・産業保健婦・産業看護婦・衛生管理担当者のための研修会（五藤）
(4) 平成６年度東海地方会研修会（竹内）
(5) 第４回産業医・産業看護全国協議会（小森）

(6)　第68回日本産業衛生学会および特別研修会（竹内）

(7)　関連学会、研究会

１）第８回健康度評価研究会（入谷）

２）第22回職業性アレルギー研究会（島）

(8)　パソコン通信「東海産業衛生ネットワーク（TOSH－Net」の提案（井谷）

第４回理事会

日　時：平成５年11月２日（火）14：00〜16：10

場　所：名古屋大学医学部鶴友会館２Ｆ大会議室

出席者：35名　　委任状　43名

1.　報告事項

(1)　本部・事務局からの連絡事項（島、柴田）

(2)　研究会からの報告

１）第22回職業性アレルギー研究会（島）

２）第22回有機溶剤中毒研究会全国集会（柴田）

３）第３回産業医・産業看護全国協議会（島）

2.　協議事項

(1)　平成５年度東海地方学会（岩田）

(2)　地方会ニュース29号（吉田）

(3)　第10回産業医・産業保健婦・産業看護婦・衛生管理担当者のための研修会（五藤）

(4)　平成６年度東海地方会研修会（飯田）

(5)　第４回産業医・産業看護全国協議会（小森）

(6)　第68回日本産業衛生学会および特別研修会（竹内）

(7)　第８回健康度評価研究会（入谷）

(8)　看護部会機関誌「産業看護フォーラム」第３号の紹介（荻田）

編集後記

明けましておめでとうございます。バブル崩壊後の景気沈滞の余波は今年も鎮まりそうにありませんが、当地方会のニュースは会員諸氏のご協力により第29号として発刊されることになりました。第１号は1984年に出されたので丁度10年の節目の第１号ということになります。内容はこれまでの主旨に沿って会員相互の情報交換をはかるためと学会・研修会等の紹介や報告などニュース性に富んだ内容とするべく編集委員一同頑張っております。

今年は戌年、見えない尻尾を振り、時には吠えながら（遠吠えにならない様に）若い先生方と同じ道を進んでいこうと思っていますので玉稿をお寄せいただき、ご指導、ご鞭撻下さい。

（鎌田　隆）

次回発行　平成６年５月１日

編集責任者　吉田　勉（聖隷健診センター）

編集委員（五十音順）

井谷　徹（名市大）　岩井　淳（全日本労働福祉協会）
鎌田　隆（本田技研浜松）　加藤　保夫（岐阜県産業保健センター）
五藤　雅博（旭労災病院）　後藤　猛（ヤマハ健康管理センター）
佐賀　務（藤田保衛大）　榊原　久孝（名大）
柴田　英治（名大）　清水　高子（清水ヘルスケア事務所）
高柳　泰世（本郷眼科）　谷脇　弘茂（藤田保衛大）
中川　祐子（東芝三重）　松本　忠雄（名市大）
山田　琢之（名古屋市職員健康管理センター）

財団法人 愛知健康増進財団
会　長　松　永　亀三郎
理事長　赤　塚　邦　夫
診療所長　小　倉　幸　夫
名古屋市北区清水1-18-4　TEL.052(951)3331

AMANO 天野産業株式会社
代表取締役　宮　本　政　雄
〒461
名古屋市東区泉二丁目21−11
☎（052)931−０１０１（代表）

労働大臣認可
社団法人 オリエンタル労働衛生協会
理事長　大　武　八　郎
名古屋市千種区今池一丁目８番４号

●トータル・ヘルス・プロモーション・プラン（T・H・P）
●作業環境測定・改善指導
財団法人 岐阜県産業保健センター
理事長　籠　橋　久　衛
多治見市東町１丁目９番地の３
TEL〈0572〉２２−０１１５

医療法人 愛知集団検診協会
愛知健診所
理事長　杉　野　義　郎
〒496 津島市藤里町2丁目3番地の1　☎0567(26)7328

社団法人
岡崎市医師会公衆衛生センター
〒444　岡崎市竜美北２丁目６番地１
電話　0564(52)1572(代表)

労働安全コンサルタント（労働大臣登録 化　第68号）
労働衛生コンサルタント（労働大臣登録 工学 第56号）
愛知県労働安全衛生相談員
有限会社 柏木コンサルタント
〒471 豊田市野見山町１丁目102番地7
TEL（0565）８８−５４８８

労働大臣許可
KKC 財団法人 近畿健康管理センター
附属労働衛生総合研究所　附属公益事業推進室
附属予防歯科保健指導センター　KKCウエルネス倶楽部
三重事業部 〒514 津市神戸165 TEL 0592-25-7426(代)
名古屋事務所 〒460 名古屋市東区筒井3-27-17 AT3ビル5F TEL 052 933-1520

謹賀新年

平成六年 元旦

財団法人 **公衆保健協会**
「集団健診センター」
〒453 名古屋市中村区二ツ橋町4－4
電話 代表〈052〉481－2161番

財団法人 **静岡県産業労働福祉協会**
会長 石田ヨネ子
健康管理センター所長 丸山正明
〒421-01 静岡市下川原6-8-1 ☎054-258-4855(代)

(社福)聖隷福祉事業団
聖隷予防検診センター
所長 水谷礼子
〒430 浜松市三方原町3453 TEL.053(439)1111

健診健康総合サービス
(財)全日本労働福祉協会東海支部
支部長 福島忠良
〒457 名古屋市南区柵下町2-4 052(822)2525

医療法人 東海産業医療団
中央病院
健康管理センター
〒476 東海市荒尾町丸根1番地
TEL(052)604-2171 FAX(052)603-5122

(財)東海検診センター
理事長 宮崎勘治
診療所長 斎藤俊二
〒410 沼津市新沢田町8番7号 ☎0559-22-1157

名古屋市医師会協同組合
名古屋市医師会健診センター
理事長 高澤嘉人
〒461 名古屋市東区葵一丁目4番38号
TEL.(052)937－8460 FAX.(052)937－8402

医療法人
日本生命ヘルスコンサルタント
所長 原爽
〒450 名古屋市中村区名駅南1-27-2
日本生命笹島ビル6F
TEL (052) 582－0751

社団法人 **半田市医師会健康管理センター**
半田市医師会臨床検査センター
平成6年春 新館竣工移転予定
(新住所：半田市神田町1－1)
〒475 半田市雁宿町1の54の8 TEL.0569-21-3410

(財)三河保健予防協会
理事長 由利卓也
〒442 豊川市大堀町77 TEL 05338-6-1515

医療法人 **光生会病院**
豊橋市吾妻町137番地

(社福)聖隷福祉事業団
聖隷健康診断センター
平成6年2月新館に移転
所長 臼田多佳夫
(新住所)〒430 浜松市住吉町2-35-8 TEL.053(473)5501

財団法人 芙蓉協会
聖隷沼津病院
院長 積惟貞
聖隷沼津病院健康診断センター
所長 力石務
〒410 静岡県沼津市本字下一丁田898-1
0559-62-0932(代表)・62-9882(センター直通)

(医)宏潤会 大同病院
理事長 石原晃
〒457 名古屋市南区白水町9番地 TEL.052(611)6261

医療法人 九愛会
中京サテライトクリニック
理事長 黒田義孝
〒470-11 愛知県豊明市西川町島原6番地の7
TEL.〈0562〉93-8225(代) FAX.〈0562〉93-0938

(医)豊昌会
豊田健康管理クリニック
理事長 加藤昌平
〒473 豊田市竜神町新生155番地 TEL 0565(27)5550

医療法人 名翔会
名古屋セントラルクリニック
〒457 名古屋市南区城下町3丁目14番地
☎(052)821-0090(代) FAX(052)824-0655

(財)日本予防医学協会
健康社会フォーラム名古屋談話室
〒461 名古屋市東区代官町39-18 日本陶業連盟ビル内
TEL.(052)931-0526 FAX.(052)932-7092

医療法人 **曙会 美合病院**
理事長 神取武史
〒444 岡崎市美合町字平端24番地
TEL〈0564〉51-2521(代) FAX〈0564〉54-5851

健康開発、疾病治療、介護福祉
に広く関わる八神。

私たちはいつも、
生命を愛する心とともに
歩みたいと思います。

本社 〒460 名古屋市中区千代田二丁目16番30号 ☎(052)251-6671(代) 分室 ☎(052)774-0678(代)
豊橋営業所 ☎(0532)54-0401(代) 一宮営業所 ☎(0586)44-1171(代) 安城営業所 ☎(0566)77-5025(代)
三重営業所 ☎(0592)31-1221(代) 四日市営業所 ☎(0593)51-1811(代) 伊勢営業所 ☎(0596)27-1247(代)
岐阜営業所 ☎(0582)74-1135(代) 高山営業所 ☎(0577)32-8630(代) 浜松営業所 ☎(053)465-5200(代)
商品センター ☎(052)261-1738(代) ヤガミホームヘルスセンター岐阜 ☎(0582)65-2736(代)

YAGAMI
株式会社 八神製作所